

私は 1980年代後半から折に触れ「21世紀は人類はウイルスとの戦いになる」と公言してきました。後に2001年4月保健学博士の菅原明子氏の著書でも「ウイルスの時代がやってくる」と初版を出しています。さて 前述の転機とは細菌ウイルスに対し、歴史的事実のように薬剤による対応をしてきた訳ですが抗生物質に耐性を示したために すでにペニシリンで絶滅したはずの結核菌や緑膿菌が再出現し、新しいノロウイルスや鳥インフルエンザが変位をして猛威をふるおうとしています。

**10秒程度で99%以上の殺滅が可能**

私の研究している紫外線は直接 細菌やウイルスに照射されると遺伝子のDNAを組織破壊するため、手指の消毒には10秒程度で99%以上の殺滅が可能です。感染の多くが手指からの伝播経路とされている二次汚染が原因とされた今日ようやく出番がめぐってきたところです。

さて、私が27年前にロータリーに入会して職業奉仕という言葉を知るわけですが振り返ってみると「創造と挑戦」の繰返しで食中毒・感染を予防するために科学的根拠(エビデンス)に基づいたより安全で効果的消毒の方法を追求する今尚続けている訳ですが、私なりの職業奉仕になるのかなあと日々努力を続けています。

終りに皆さんよくご存知のポリオウイルスは小腸で増殖して腸壁を破って、その奥の血管に入り脳や脊髄に入り込んで運動神経を犯して腕や足をマヒさせる病気です。

ぜひロータリーの力で近い将来に根絶したいと願うばかりです。

ご清聴ありがとうございました。

(2011年 7月19日(木) 例会場にてガバナー補佐 安井克一様 「卓話」)

 **ニコニコBOX**

ガバナー補佐 安井克一様(松戸ロータリークラブ所属)

一年間よろしくお願ひいたします。

鈴木悦朗会長 なでしこジャパンの活躍に感動しました。三重苦の中にある日本に そして未来を担う子どもたちにきっといい影響をもたらしてくれることでしょう。

ロータリー会員の皆様にはチャリティーコンサート・あずみ野への移動例会とハードなスケジュールにおつきあい 頂きありがとうございました。

児山守治幹事 毎日暑い日が続きます。身体に充分気を付けてこの夏を乗り切りたいものですね。 ここで一句 **白馬山 雷ひびき 妻想ひ**

(注釈)雷の音が激しく 情けない状況に ふと妻を思い出してしまった夫婦愛・・・

石井新一会員 7月12日～13日の移動例会「安曇野歩こう会」に多数の参加(22名)いただきありがとうございました。天候にも恵まれ非常に良い旅ができました。

中原光男会員 早退のお詫びです。1時に約束があります 失礼をいたします。

高橋 進会員 長男の嫁さんの父親が春の叙勲を受章し 昨日はお祝いを致しました。

野村 充会員 本日はニコニコの褒賞ありがとうございました。又 安井ガバナー補佐のすばらしい卓話ありがとうございました ニコニコします。

渡辺敏弘会員 ニコニコの表彰を頂きありがとうございました。

高橋 修会員 ニコニコの表彰ありがとうございました。今後もできるかぎり協力したいと考えています。



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌  
・広報委員会》

委員長：伊師 剛迪 副委員長：大川 隆永  
委員：平田 洋一 委員：高崎 卓哉

社会奉仕基金  
3,820円

国際ロータリー第2790地区第12分区  
松戸北ロータリークラブ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 国際ロータリー・テーマ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1878回 例会 (第3週) 2011年 7月19日(火)

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー  
第2790地区ガバナー 山田修平  
第12分区ガバナー補佐 安井克一  
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗  
松戸北ロータリークラブ幹事 児山守治

例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)  
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ボウル1F  
事務所 - 松戸市根木内249-7 榊山安内  
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696  
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

## The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

会長 鈴木 悦朗

昨日は、女子サッカーなでしこジャパンが夢を追いかけて誰も予想しなかった世界一になる奇跡を起こし久しぶりに感動いたしました。今日日本は、バブルの崩壊、リーマンショック等による景気の停滞、大震災・津波の被害、それに加えて原発の事故の三重苦にあえいでいます。その最中に、失点しても失点しても、最後まであきらめないで、粘り強く夢を追いかけて、誰もが予想しなかった世界一の座を勝ち取った姿に神がかり的なものを感じたのは私だけではないでしょう。

今日は、7月7日には延期になっていた東日本大震災のチャリティコンサートを実施。第2例会は「おひさま」の舞台、安曇野・白馬へ例会場を移し、親睦を深めるいい機会となったことなどを含め、私にとって感動の7月となりました。ハードスケジュールにもかかわらず、共に汗をして、真の親睦を深める思いです。会員の皆様に心より感謝申し上げます。

今、三重苦の中にあって、日本は自信を失いつつあります。リーダーシップの欠如なども起因して「何をやってもダメだよ」というネガティブな考え方が蔓延しています。

日本の女子サッカーがまさかWカップを勝ち取ると誰が想像したでしょうか。なでしこジャパンの活躍に、あらためて粘り強く夢を追いかけることの大切さを教わった思いがします。ポールハリスがロータリーをつくった時、シェルドンが「奉仕の理想」を希求した頃はまさしく今の日本と同じ苦難の社会状況であったと聞いております。

親睦と奉仕の両輪といいますが、さまざまな試みを通じ、共に汗をして、ロータリアン同士の深い信頼を築き、「Enter to learn, Go forth to serve」例会でさまざまなロータリアンの経営哲学、職業奉仕について勉強し、外に出ては、「奉仕の理想」をまずは、自分の仕事に、地域での奉仕活動の実践の場に活かしていきたいと思っております。

今日は第12分区、安井克一ガバナー補佐に、今年度の地区の方針の伝達とともにご本人のお仕事に関する卓話をお願いしました。安井ガバナー補佐は、起業家であり、かつロータリーのポジティブな職業奉仕の精神を自社において推進されてきたお方です。皆様と共に例会で学んでまいりたいと思っております。

「Enter to learn, Go forth to serve」例会や委員会などで学び、会員の皆様の会社の運営に役立て、さらには地域社会に、大きくは東日本大震災の被災者のために、新世代の育成に貢献し、より大きく考えれば、ロータリー活動を通じて世界平和に一隅を照らしてゆこうではありませんか。会員の皆様には、The Ideal of Service(奉仕の理想)を求めて、少しでもできることを実践していこうと思っておりますので、なおいっそうのご協力の程よろしくお願いいたします。

## 本日のお客様

安井克一様 (松戸 ロータリークラブ所属)  
山田達郎様 ( " )  
草野 進様 ( " )  
安藤俊雄様 (松戸東ロータリークラブ所属)  
小菅寿和様 (松戸西ロータリークラブ所属)  
升谷 庸様 (柏西 ロータリークラブ所属)

## 幹事報告：児山守治

1. 松戸中央ロータリークラブ  
7月28日(木)の例会は夜間移動例会  
点 鐘 18:00  
場 所 浅草 助六の宿「貞千代」
2. 社会福祉協議会 「社協だより」
3. 沼南ロータリークラブ 会報が届いております
4. 流山ロータリークラブ "

## 予告

7月26日(火)「卓話」地区クラブ奉仕委員長 石井七郎様

## 卓話

第12分区 ガバナー補佐 安井克一様 (松戸ロータリークラブ所属)

今日はガバナー補佐就任のご挨拶に伺う予定でしたが鈴木会長の方から折角ですから卓話をさせていただきます。誠に恐縮ですが職業人の集まりですから、私の仕事についても少しお話しして、ご理解を頂ければと思ひ引き受けることにいたしました。

始めに私の素性を少し話しますと、北海道の出身で高校卒業後、上京 大学を経て荒川区のスプリング製造会社に就職、5年間 勤務後、昭和47年松戸市稔台にて起業しました。

3人の職人と2人のパートで板バネと精密プレスの製造でした。その頃のパーツの製造を下請けするだけでは将来が期待できないと考え、海外で見たトイレの乾燥器が国内でも普及するのではと思ひ開発にも着手いたしました。消毒のできる乾燥機として、紫外線ランプと遠赤外線放射熱を利用した「殺菌・乾燥システム」構築の挑戦の始まりでした。

幸い昭和54年特許の取得にも こぎつけましたが薬剤が全てと信ずる厚生省と真っ向から対峙する事になり、苦悩の戦いが待っておりました。

## 皮膚がんや皮膚障害

当時 紫外線を人体に照射する等とんでもないことで、**皮膚がんや皮膚障害**を避けられない判断が医学会の立場でありました。一方で私は米国・ヨーロッパの皮膚学会の歴史的発見や論文そして皮膚障害の臨床データを多く入手し、紫外線による皮膚がんの影響を研究しました。結果人種の細胞により大きく影響の度合いが異なることを知りました。赤道直下に近い国ほど、危険で特に白色人種が皮膚がんになり易いことや、黒人には黒腫という特別のがんがあり、日本人のような黄色人種が皮膚がんにかかりにくいことも知った訳です。

1997年(平成9年)知人の紹介で帝京大学微生物学科教授の山口英世先生と出会いました。教授は真菌(カビ菌)の研究者としては、当時第一人者と評判の方で、私の熱意に共感をしてくれ当社の乾燥器で助教授講師のチームを組んで頂き 実際の殺菌効果のデータ取りの実験をしてもらえることになり1年をようした後、平成10年の日本環境感染学会に論文掲載し、翌年1999年(平成11年)審査の結果 論文発表にて承認されました。

## 「手洗いに始まって、手洗いに終る」

さて、昭和48年 私は「子供と老人を食中毒と感染から守る」をターゲットにこれに対する予防は手洗いの厳行が全てであると信じ「**手洗いに始まって、手洗いに終る**」の格言もつくり 手指消毒の大切さを話して廻っても市場はまったく関心を示さず食中毒を出しても1週間程度の営業停止で再営業できるため、消毒については全く無関心の時代が続いた訳です。

そうしている内に私にとって ひとつの転機がやって来ます。日本は保険の適用があるため、アメリカやヨーロッパより薬を多く使用するため、メチシリンという抗生物質を使いつづけた結果、菌は耐性化して、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)が院内感染として出現する訳です。更に1996年(平成8年)大阪堺市の保育園で大規模なO-157集団食中毒が発生、正確には腸管出血性大腸菌 O-157:H7 のことです。細菌が死ぬときにペロ毒素を腸管の中に放出し粘膜をただれさせ、その傷口から血液中に入ると菌が数百個に増えただけですぐ感染し、人から人へと二次感染を引き起こします。

この頃から国立感染研究所の専門家がようやく「手洗いとうがい」を奨励するようになってきたのです。これを追うように1998年(平成10年)の頃から小型球形ウイルス(SRSV)の名称で胃腸炎をおこす、後にノロウイルスとなる。これらは全てアメリカやヨーロッパで1970年代に出現しており、今更 国内では多くの患者が出ております。繁殖性が高く、エタノール消毒効力が弱いというやっかいなウイルスです。

又 2003年 中国ではSARS(重症性呼吸器症候群)、2004年には国内で鳥インフルエンザ 近年 新型インフルエンザで世界中パンデミックの危険にさらされています。

(次ページにつづく)



## ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。